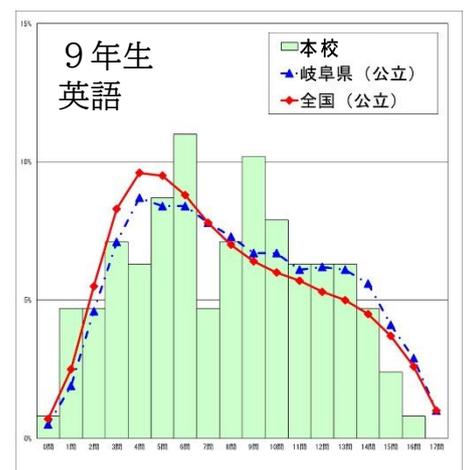
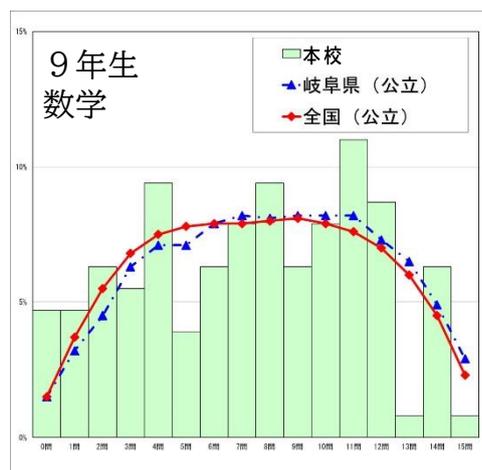
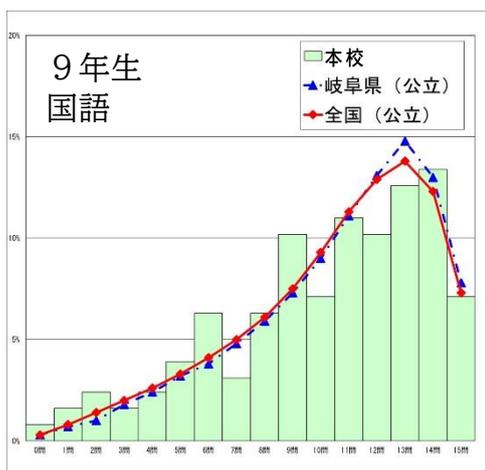
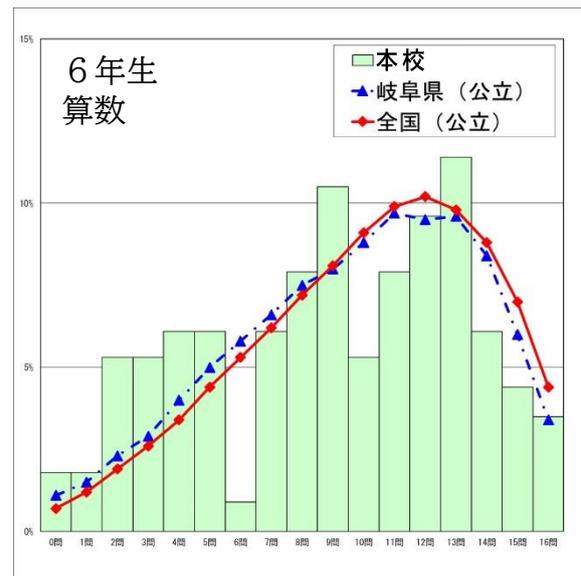
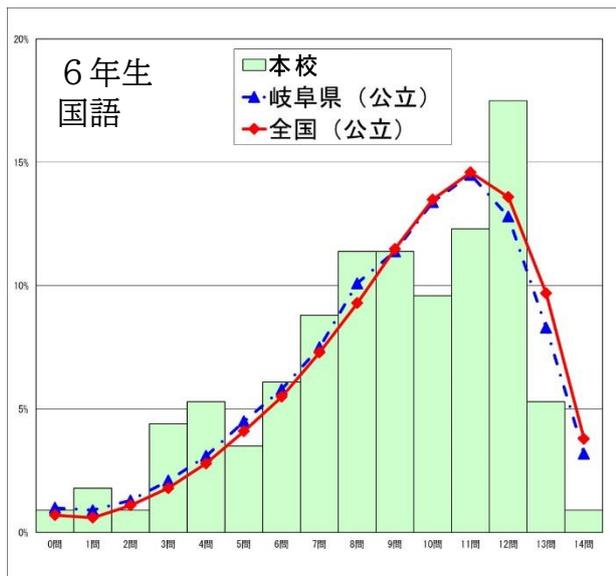


# 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果分析と改善方途

全国の中学校3年生(9年生)と小学6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」で明らかになった本校の学力の傾向、生活習慣や学習環境に関する意識についてお知らせします。また、北学園で学力向上に向けての改善方策をまとめました。

## 【本校及び岐阜県、全国の平均正答率】

平均 正答率	6年生		9年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
本校	62	56	68	49	45
岐阜県(公立)	65	60	71	53	48
全国(公立)	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6



## ◆学力に関する調査の結果から

		特に身に付いている内容	課題のある内容
国 語	6 年 生	<p>叙述や描写を基に、登場人物の気持ちを捉えるような「読むこと」の領域は力が付いています。しかし文章全体の構成や書き表し方を整えるような「書くこと」の領域に弱さがあります。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと。</li> <li>・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。</li> <li>・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。(全国+0.3pt)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。</li> <li>・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。</li> <li>・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。</li> </ul>
	9 年 生	<p>文章に書かれていることを基に、心情を表す表現を理解したり、要旨について把握したりするなどの「読むこと」の領域については力が付いています。一方で、表現の仕方や書き表し方を整えるといった「書くこと」の領域に弱さがあります。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象や行為、心情を表す語句について理解すること。</li> <li>・文章に書いてあることを基に、中心的な部分と付加的な部分について、要旨を把握すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問すること。</li> <li>・読み手の立場に立って、書き表し方などを確かめて、文章を整えること。</li> </ul>

算 数 ・ 数 学	6 年 生	<p>基本的な計算など「数と計算」、「変化と関係」領域についての力は付いています。「データの活用」領域の正答率が低く、また、根拠を明らかにして説明する力に課題があります。問題の理解と考察する力を向上させていく必要があります。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ともなって変わる2つの数量関係について、表から変化の特徴を読み取ったり、知りたい数量の大きさを求めたりすること。</li> <li>・四則計算について、計算の順序に気を付けて、正しく計算すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正三角形の構成について考察し、記述すること。</li> <li>・図形について、辺の長さや面積の大小について判断し、その理由や言葉、数を用いて説明すること。</li> </ul>
	9 年 生	<p>基本的な計算などの「数と式」の領域についての力は付いています。また、「データの活用」領域の正答率は、全国や県の平均を上回っています。しかし、「図形」と「関数」においては平均を下回っており、基本的な知識・理解を身に付けていくのと同時に、反復練習によって確かな力としていく必要があります。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な計算問題。</li> <li>・資料のデータについて、用語の意味を理解し、グラフから必要な情報や数値を読み取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間における点や直線、平面の位置関係についての理解に乏しい。</li> <li>・関数領域において、2つの数量関係を理解し、決められた値を正しく求めること。</li> <li>・正答率が高い問題であっても、無解答がわずかながらある。正答率 80.3%⇒無解答率 1.6%、正答率 88.2%⇒無解答率 3.1%</li> </ul>

英語 (9年生のみ)	9 年 生	<p>文章や会話文を読み取り、内容について理解する「読むこと」領域の正答率は、全国や県の平均をやや上回っており、無解答もほとんどありません。一方で、「書くこと」領域についての正答率は全国、県内と同様、非常に低く、無解答については約 10%~35%に及んでいます。自分の伝えたいことを書き表すための話型や構文を理解し、表現する力を高めていくことが課題です。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」というそれぞれの文章を理解し、事実と考えを区別して読むこと。</li> <li>・文と文との関係を正確に読み取ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くこと。</li> <li>・疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くこと。</li> <li>・日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと。</li> </ul>

## ◆生活習慣や学習環境に関する質問紙の結果から

### \*「学校に行くのは楽しいと思うか。」 **学校の楽しさ**

前期課程 82%、後期課程 88%の児童生徒が“学校に行くのは楽しい”と回答しています。反面、前期課程 18%、後期課程 12%の児童生徒が「楽しい」と感じていない実態があります。どの子どもが楽しく過ごせる学校にしていくことが大切だと考えています。

### \*「将来の夢や目標をもっているか。」 **夢や希望**

前期課程 80.2%の児童が“夢や目標をもっている”と回答しました。仲間との生活、様々な体験活動等を通して、自分自身の将来像を確立していけるようにしていきます。一方で、発達段階に応じて現実的なことが見えてきたり、自分の将来について深く考え始めたりする時期に差し掛かる後期課程の生徒は 55.9%という結果でした。総合的な学習の時間や進路学習を通して、自分の意欲や適性などを理解し、自分の将来に向けて前向きに考え、切り拓いていけるような進路学習を進めていきます。

### \*「自分にはよいところがあると思うか。」 **自己肯定感**

前期課程 87.3%の児童が自分のよさを感じています。全国や県の平均値と比較して 5pt も高い結果です。後期課程では 77.2%の生徒が自分のよさを感じており、全国や県の平均値よりは低いですが、「当てはまる」と自信をもって言える生徒の割合は多いです。自分のよさを見つけ、伸ばし、発揮できる学校づくりを、児童・生徒と教師で進めていくことが大切だと考えています。例えば、義務教育学校の利点を生かし、異学年交流を通して上級生が下級生に頼られたり、感謝されたりすることによって自分のよさに気づき、自己肯定感を高めていくような営みを設けていきます。

\*「人の役に立つ人間になりたいと思っているか。」 **自己有用感**

前期課程 97.3%の児童、後期課程 96.1%の生徒が“人の役に立ちたい”と回答しています。仲間と協力し、いろいろなことにチャレンジすることを通して、実績を残し、自信をつけられるようにしていきたいです。

\*「家で、自分で計画を立てて勉強をしているか。」「平日、1時間以上の学習をしているか。」 **家庭学習**

“計画を立てて学習できている”と回答した前期課程の児童は71.1%、“平日1時間以上の学習をしている”と回答した児童は90%でした。小学生の学習時間は、(学年×15)分とされています。学校からの宿題だけでなく、自主的に進める学習にも取り組めるとよいです。一方で、後期課程の生徒について、“計画を立てて学習できている”と回答したのは56.7%に留まっており、“平日1時間以上の学習をしている”と回答した生徒は73.2%でした。学習する教科が増え、宿題から自主学習へと自分で学習内容を考えて取り組む必要があります。地道に粘り強く学習を積み重ねていく資質を育てていくとともに、自分にとって必要な学習内容を自分で選択して行えるような指導をしていきたいです。

\*「ICT機器は勉強の役に立つか。」「勉強のために30分以上使用しているか。」 **ICT機器の活用**

“ICT機器が勉強の役に立つ”と回答した前期課程の児童は95.5%、後期課程の生徒は95.2%、“平日、勉強のために30分以上ICT機器を使用している”と回答した前期課程の児童は39.6%、後期課程の生徒は43.2%でした。どちらも県、全国平均を上回っています。児童生徒がICT機器の利点を理解し、学習に活用することで理解を深めたり、問題解決につなげたりしていることが考えられます。アプリを活用して、教科書やノートでできない学びを補うことで学習を深めていくなど、それぞれの必要に応じて有効に活用し、学習効果が上げられるよう継続的に指導していきます。

## ◆今後の改善方策

\*国語科の授業を中心に、学校生活全般において“書く活動”を充実させ、自分の思いや考えをまとめたり、表現したりする力を伸ばしていきます。

\*算数・数学では、問題解決するための根拠を明らかにできるよう、普段の授業において、解だけでなく、解を導くその過程を大切に授業実践を進めていきます。

\*英語では、基礎的な知識を確実に身に付け、それを活用できる場を多く設定する。また、相手に伝えるために、自分の思いや考えをまとめ、文章を書く機会を増やしていきます。

\*班や小集団グループでの活動を設定し、「なぜ」「どうして」を考え、話し合う活動を通して、自分の考えを表現する力を伸ばせるようにします。また、仲間との活動を工夫し、協働的な学びを充実させるようにしていきます。